

強弱交錯する米国景気

ポイント① 製造業と非製造業のギャップ

9月初めに発表された米国の経済指標は強弱が入り交じり、景気の方向感がつかみにくなっています。

8月の米ISM製造業景況感指数は拡大/縮小の分岐点である50を割り、2016年1月以来の低水準となりました。一方、非製造業景況感指数は前月から上昇しました。図1が示すように両者のギャップが開いています。米国は非製造業のウェイトが高いため、全体的には景気は堅調とも言えます。しかし、非製造業指数は製造業指数に遅れて動く傾向があるため、これから下がる可能性もあります。

ポイント② 雇用はやや鈍化、賃金上昇は続く

8月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月比+13万人と、7月の+15.9万人を下回りました。今年初め頃までの20万人を上回る増加ペースから鈍化しています。

一方、失業率は8月には3.7%と7月から横這いと低水準に留まり、時間当たり賃金は前年同月比+3.2%と高めの伸びとなりました。労働需給は引き締まった状態が続いています。

ポイント③ 利下げの先に注目

FRB（米連邦準備制度理事会）も、景気判断には迷うでしょう。ただ、米中対立の中で世界的に貿易や投資の減退が懸念されることなどから、9月17、18日の次回FOMC（米連邦公開市場委員会）で利下げを行なうと見られます。市場は利下げを既に織り込んでいるようです。株式、債券、為替などが影響されるとすれば、利下げそのものより、さらなる利下げの可能性について、声明文、FOMC参加者の見通し、パウエルFRB議長の記者会見でどのような見解が示されるかという点でしょう。

図1：米ISM(サプライマネジメント協会)景況感指数

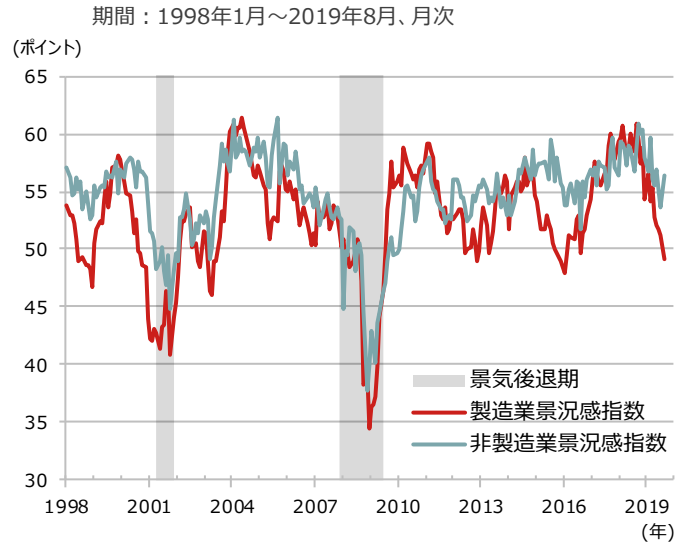


図2：米失業率と時間当たり賃金



重要イベント

9月13日	米小売売上高 (8月)
9月17日	米鉱工業生産 (8月)
9月18日	米金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。